

着任挨拶

北海道保健福祉部
子ども応援社会推進監

野澤 めぐみ



この6月に子ども応援社会推進監に就任いたしました野澤でございます。貴会におかれましては、北海道母子福祉センターや母子家庭等就業・自立支援センターの運営などを通じ、道内各地域でひとり親家庭の皆様への積極的な支援活動に御尽力いただき、誠にありがとうございます。また、北海道善行賞表彰への御協力や、道庁本庁舎などでの清掃業務において、毎日丁寧な作業いただいておりますことにも重ねて御礼申し上げます。

さて、この4月に国では「子ども家庭庁が創設され、子ども施策の基本的な方針等を定める「子ども大綱」策定

に向けた議論が進むなど、「子どももんなか社会」の実現に向け、様々な検討や取組が開始されています。

道におきましても、子ども子育て政策をより一層強力に推進するため、この6月に「子ども政策局」を新たに設置し、これまでの1課体制から2課体制としたところです。国の議論の動向を踏まえつつ、ひとり親家庭の皆様へ寄り添った相談対応や、経済的自立に向けた支援などに、きめ細かに取り組んでまいります。

また、貴会を往訪させていただきました際に、畑理事長から、支援制度を知らずに困っている方を一人でも減らすことが大事だとの考えを伺ったところです。道としても、貴会を始め、市町村や関係機関と連携し、各種制度の分かりやすい周知に努めてまいります。

最後になりますが、今後もひとり親家庭の方々を取り巻く様々な課題について、貴会員の皆様の率直な御意見を伺う機会を設けながら、ひとり親家庭の方々はもとより、道民の皆様が安心して子育てし、働くことができるよう取り組んでまいりますので、引き続き、皆様方の御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

再任挨拶

理事長 畑 和子

私たちは、ここ3年間あれこれ制約の中で生活してきました。新型コロナウイルス感染症は5類に移行、マスクも任意となり、にわかには活気づいてきたように思います。

みんなの拠点である母子福祉センターは、換気装置などの更新をしましたが、研修会開催の収容人数には至らないところです。

でも、道内各地のスポーツ少年たちは宿泊に利用されています。単位会、地区母連のみなさんにとりましては、自粛していた活動が再開でき、活発に展開されていることでしょうか、自粛期間中は事業もできず、最近は何となく物価高騰とやりくりも大変なことと思います。

困難な時こそ、母子団体の底力を発揮して、知恵をしぼり、工夫して、子どもたちが笑顔になる名案が出てくるのではないのでしょうか。

ひとり親家庭の支援に奨学金給付事業もありますが、基金を集めてその果実を母子家庭への奨学金

制度を設けた歴代の先輩たち、趣旨を理解してくださった北海道新聞振興基金さん、北洋銀行さんからもいただきお世話になっていきます。更に、北海道CGCみどりところの基金さん、ローソングループさんからもご支援いただいています。ひとり親家庭が、「知らなかった」「子どもがいません」ということにならないように努めていきたいものです。

それには、地元の会長さん、地区母連さんの協力が重要です。是非、お力を貸してください。

又、地域でも受けていることと思いますが、子ども達への食糧品、学用品の支援をたくさんいただいで感謝のほかありません。

加入率の減少、役員の高齢化、希薄な今日などの問題もあり、解決策が見いだせない悩みもかかえています。

コロナの状況を見ながら、感染防止に努め、油断せず、みんなが笑顔で楽しんでほしいと思います。

母子福祉センターで、お会いできる日が一日も早く来ることを願って頑張ります。ご協力をよろしくお願い申し上げます。